



「乾漆盛器」

増村紀一郎 (ますむら・きいちろう)

1941年東京都生まれ。1967年東京芸術大学美術学部工芸科卒業、69年大学院修了。82年美術学部工芸科助手。講師、助教授を経て97年から教授。2002年紫綬褒章受章。「乾漆盛器」は1988年伝統工芸展出品。器の素地は、奈良時代の仏像制作に用いられた乾漆技法で制作。軽量で気温や湿度の変化にも狂いや歪みがないといった特徴をもつ。放射状の線模様は、円盤の周囲に朱漆を付け回転させながら描かれた。

東京芸術大学広報誌 藝大通信第4号

編集発行 東京芸術大学広報委員会

編集委員 野田暉行 (副学長・音楽学部作曲科教授)
長谷部浩 (美術学部先端芸術表現科助教授)
渡邊健二 (音楽学部器楽科助教授)
永井 夫 (事務局長)

アートディレクター 連見智幸 (美術学部デザイン科助教授)

制作 株式会社 平凡社

発行日 平成14年10月31日

お問い合わせ先

東京芸術大学総務課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

電話 03-5685-7509 FAX03-5685-7760

e-mail jkikaku@off.geidai.ac.jp URL http://www.geidai.ac.jp

第4号目次

特集 21世紀のミュージアム 大学美術館

3 9 大学美術館への提言

大学美術館と奏楽堂の役割 辻井喬
刺戟ある場としての大学美術館 陰里鐵郎
提言 に答えて 竹内順一

10 15 ようこそ大学美術館へ 大学美術館コレクション10選

16 17 NEWS 2002.6~2002.9
国際文化交流シンポジウム開催 前田耕作

18 19 タイムカプセルに乗った芸大

【第4回】1931~1940年
佐藤道信 東京美術学校1932年
瀧井敬子 東京音楽学校1932年

20 21 開かれた大学

東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室
柘植元一

22 23 学生のいる風景

2002年新卒業生紹介演奏会
自由を表現することへの挑戦 真部裕

芸大短信2002.11~2003.2

24 25 秋から冬への大学美術館
鍛金 伊藤廣利の世界 / 二箇所 絵画場から絵画衝動へ /
BREEZE (ブリーズ) 宮下安弘

26 27 秋から冬への奏楽堂
オルガン+ シリーズ / 芸大定期邦楽第65回演奏会

藝大通信

No.04

TOKYO GEIDAI
東京芸術大学広報誌

第4号刊行にあたって

一大学が美術館と音楽ホールを併せ持つ例は、おそらく世界的に見ても極めて希有なことに違いありません。

芸大美術館と奏楽堂は、芸大から社会への発信拠点として、平山学長の提唱による「上野文化ゾーン」の一翼として、また、学内の重要な教育拠点として、その機能を果たすとともに、日々活発な活動を展開しております。さらに今後、将来構想の中核機関として大いなる役割を担うことになるでしょう。

今秋、美術館は創立3周年を、(新)奏楽堂は創立4周年を迎えます。

各種催し物については、これまでもこの芸大通信でご案内して参りましたが、一つの節目として、今号と次号では、これら施設のご紹介を兼ねつつ、大学が運営するこういった施設を取り巻く諸問題と未来像について考察することにいたしました。

まずは、このところ「アフガン展」「ウィーン美術史美術館展」と大きな催し物が続く美術館を特集いたします。市井の施設とはまた異なった独自の側面が浮き彫りになるのではないかと思います。

お忙しいなか、貴重なご高見ご助言をお寄せくださいました辻井先生、陰里先生をはじめ、原稿をご執筆くださいました各位に厚く御礼申し上げます。

編集部ではまた、皆様からのご意見をお待ちしております。郵便、Fax、メールいずれでも結構です。どしどしお寄せください。

藝大通信編集委員長
副学長 (企画担当)
野田暉行